



百首
竟孝
惟世

特別
A5
6720



久世藏書

春



あまのそとにありてはるる日とてはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
雅世

霞

あまのそとにありてはるる日とてはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
雅世

雪

あまのそとにありてはるる日とてはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
雅世

残雪

あまのそとにありてはるる日とてはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
雅世

梅のつぼみもさかきもほろりて
さかきもほろりて

見花

さかきもほろりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

感花

遠くお花のよきさきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

落花

本家にいれりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

数々

さかきもほろりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

藤

さかきもほろりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

春

さかきもほろりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

更衣

さかきもほろりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

卯花

さかきもほろりてさかきもほろりて
さかきもほろりてさかきもほろりて

待秋

おかしき心持の御座り候へば

月もあつてはなほおぼろしく

同敷

いづれにてもおぼろしく候へば

おぼろしく候へばおぼろしく

平苗

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

播

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

又月雨

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

夏夜

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

夏月

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

指

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

雲

おぼろしく候へばおぼろしく

おぼろしく候へばおぼろしく

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

菊

九重の巻よのちの秋の
九重の巻よのちの秋の

楊花

秋の巻よのちの秋の
秋の巻よのちの秋の

音

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

植の葉

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

川

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

暮秋

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

晴雨

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

花

あはれなるわが娘をいふは
あはれなるわが娘をいふは

霜

秋のすまゝに霜の降りては
さびしき心もなほ
こぼれぬ

寒雪

冬に女おのちの雪の
ふりては
あはれ

冬月

冬月には雪のふりては
あはれ

氷

氷のつらさは
あはれ

葦

葦のたわぶは
あはれ

千鳥

千鳥のさえずりは
あはれ

氷鳥

氷鳥のさえずりは
あはれ

後雪

後雪のふりては
あはれ

深雪

深雪のふりては
あはれ

はるかにあはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり

あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり

あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり

あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり
あはれなるものなり

此代を留りらるひらけははるれ神の君ありしはね
作

さくまなをいれし行もたはひとるはあまの御
いさむちをいれし行のまゝに御いし君もせん
心あ

かゝしめしむとていへばいさむちの友にたは
のたてに代のついでにいさむちのうとをたは
田家

才は社のあまのいさむちの御いさむちのついで
輝とていさむちのついでにいさむちのついでに
磯

らるまていさむちのついでにいさむちのついでに
夏枝のついでにいさむちのついでにいさむちのついでに

浦鶴

あまのついでにいさむちのついでにいさむちのついでに
いさむちのついでにいさむちのついでにいさむちのついでに
述べ

神祇

あまのついでにいさむちのついでにいさむちのついでに
いさむちのついでにいさむちのついでにいさむちのついでに
右之ついでにいさむちのついでにいさむちのついでに
也一ついでにいさむちのついでにいさむちのついでに

松本
羽林有判

宛承六十二回以中官行本史以建自是下年好日書之

慶安九年六月廿五日 泉公岸社取令
書了

慶安元七由海健下日學年次得羽林水原海了

